

**『基準地震動の策定に関する審査会合について』**

基準地震動の審査は、「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」、「震源を特定せず策定する地震動」、「基準地震動 Ss の策定」の順番で行われます。

2月10日に開催された「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」の審査会合、4月28日に開催された「震源を特定せず策定する地震動」の審査会合に引き続き、6月16日「基準地震動 Ss の策定」の審査会合が開催され、基準地震動 Ss の見直し（最大 600ガル→620ガル）について審査が行われましたが、模擬地震波の作成に関して継続審議となりました。

**【これまでの審査の動き】**

事業許可申請書に関する新規規制基準への適合性審査は、原子力規制庁によるヒアリング審査が平成26年1月22日～平成29年6月16日までに計136回、原子力規制委員会による公開での審査会合が、平成28年6月から平成29年6月までに計7回実施されています。



【写真】第203回 審査会合  
「妥当」と評価されました。今回は、2月10日、4月28日に引き続き、「地震・地震動」について審査されています。

施設関係としては「金属キャスクの基本的安全機能」等が対象となりますが、昨年6月までに概ね規制基準の適合性が確認されています。

一方、地震・津波関係については、昨年6月から審査会合で分野（「地質・地質構造」「火山」「地震・地震動」「津波」「地盤安定性」）毎に審査されています。

「地質・地質構造」と「火山」については、昨年12月16日の審査会合において「概ね

【表】これまでの審査の回数

適合性審査		ヒアリング 審査	審査会合
事業許可	施設関係	97回	1回
	地震・津波関係	39回	6回
計		136回	7回

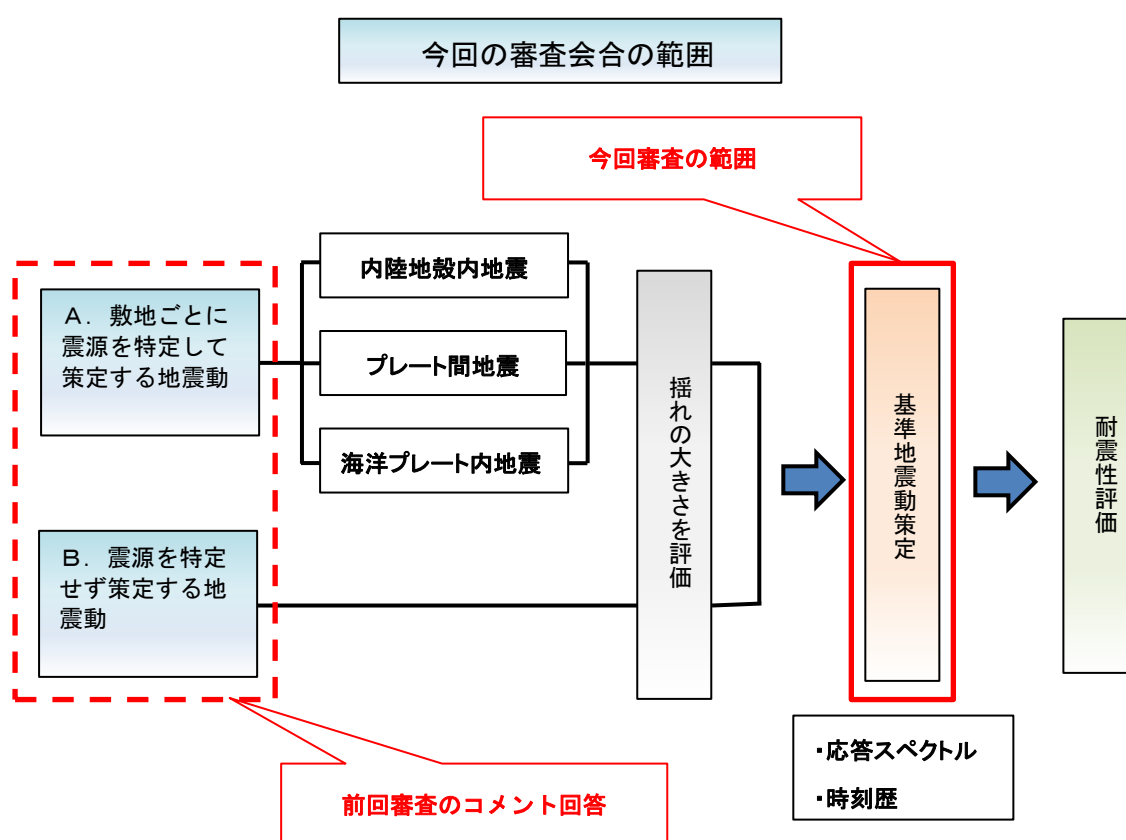
## 【基準地震動に関する審査について】

### (1) 今回の審査会合の範囲

施設の耐震設計において考慮する地震の揺れ「基準地震動」を策定するためには、「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」と「震源を特定せず策定する地震動」について検討する必要があります。

前回（平成29年4月28日）までに「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」と「震源を特定せず策定する地震動」の審査会合を行いました。

今回は、「基準地震動の策定」について説明を行いました。



- A. 敷地周辺の地質などに関する詳細な調査を実施したうえ、施設周辺に存在する活断層において地震が起きた場合の施設への揺れの大きさを評価する。これを「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動」という。
- B. 震源と活断層を関連づけることが困難な過去の内陸地殻内地震について、地震の観測記録をもとに施設における揺れの大きさを評価する。これを「震源を特定せず策定する地震動」という。

(2) 審査会合での説明内容と状況

平成 29 年 6 月 16 日の審査会合では、「敷地ごとに震源を特定して策定する地震動（コメント回答）」、「震源を特定せず策定する地震動」についての指摘事項に対するコメント回答と、「基準地震動の策定」について、説明を行いました。主な説明内容と状況については、以下の通りです。

項目	主な説明内容	状況
敷地ごとに震源を特定して策定する地震動 (コメント回答)	一切山東方断層等の他社での審査状況を踏まえて設定した、横浜断層の更なる保守性として設定したモデルに関して、地震動評価におけるアスペリティの寄与度について説明。	了解された。
震源を特定せず策定する地震動 (コメント回答)	岩手・宮城内陸地震震源域との地域性の比較において、地質・地質構造についての説明性を向上。	了解された。
基準地震動 Ss の策定 ・ 応答スペクトル ・ 時刻歴 <sup>(注1)</sup>	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動に基づく基準地震動 (Ss-A : 最大 600 ガル)、震源を特定せず策定する地震動に基づく基準地震動 (Ss-B1 : 最大 620 ガル、Ss-B2 : 最大 490 ガル、Ss-B3 : 最大 430 ガル、Ss-B4 : 最大 540 ガル) の策定内容について説明。  (Ss-B1 は 2004 年北海道留萌支庁南部地震、Ss-B2~B4 は 2008 年岩手宮城内陸地震の地震動に基づき策定。) 申請時から基準地震動 Ss を見直した。(最大 600 ガル→620 ガル)	Ss-A の模擬地震波の時刻歴波形の作成にあたり、北海道東方沖地震 M8.2 を使用していることの再説明と M8.3 を使用した場合との比較について説明すること。

(注1) 地震動を表す方法としては、時刻歴波形と応答スペクトルがある。時刻歴波形とは、経過時間を横軸に、時々刻々変化する揺れの大きさを縦軸にプロットした波形をいう。この波形を使って、建物などの耐震評価を行う。

以 上